

平成29年度 和白青松園事業報告書

1. 入所実績

○ 定員	82名
○ 延定員	29,930名
○ 入所日数	365日
○ 延入所児数	21,468名
○ 平均入所児数	58.8名
○ 入所率	71.7%

(1) 入所状況

(単位は% : 名)

月区分	4月初	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
幼児	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
小学校	17	17	17	18	18	18	18	17	17	17	17	17	16
中学校	21	21	21	21	22	22	23	23	24	24	24	24	22
高校生	17	15	15	15	15	17	17	17	17	17	17	16	14
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	58	56	56	57	58	60	61	60	61	61	61	60	55
入所率	70.7	68.2	68.2	69.5	70.3	73.1	74.3	73.1	74.3	74.3	74.3	73.1	67.0
入所 合計 8名	0	0	0	1	1	2	1	0	2	0	0	0	1
退所 合計 11名	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	6
一時保護委託 利用者人数 合計 2名		0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
ショートステイ 利用者人数 合計 97名		5	6	6	15	6	10	5	7	9	5	9	14

(2) 入退所理由

(単位：名)

入所理由 区分	虐待	就労	疾病	拘禁	養護	その他	計
年度初現在数	18	10	15	2	10	3	58
入所数	0	1	0	0	7	0	8
退 所 数	措置変更	1	0	2	0	0	3
	家庭引取	1	2	0	0	3	6
	就職・進学	2	0	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0
	計	4	2	2	0	3	11
年度末現在数	14	9	13	2	14	3	55

2. 児童の支援について

(1) 基本理念・基本方針

①基本理念

児童一人ひとりの立場に立って人権を養護、尊重し最善の福祉サービスを提供することを目指します。

②基本方針

人権尊重を養護の基本とし、事故の防止、疾病の予防に万全を期し明るく健やかに日常生活を送れるよう温かい環境作りに努力する。

* (家庭に近づけ、健康で、いつも笑顔の明るい夢のある生活)

(2) 目標の反省

☆私たちはかけがえのない存在です。お互い思いやりを持って優しい気持ちで接して行きましょう。
 =年少児童への暴力や過度な暴言等は減少傾向にある。各ホーム内の雰囲気は穏やかな面も見られ、年少児童への配慮等も増えたように感じる。
 小さなトラブルは日々起こっているため、迅速に対応した。

☆一人ひとりが目標を持ち、あきらめず一生懸命に努力しやり遂げましょう。

=クラブ活動・学習塾・個々の習い事など、多種多様になってきており、それぞれのニーズに合わせた活動が充実してきている。設定した目標を達成できるよう継続的な支援を実施した。

☆まわりの人に素直に「ありがとう」が言える感謝の気持ちを持ちましょう。

＝日常の生活場面での言葉のやり取りなどで、何気ない「ありがとう」等の言葉も聞かれる場面もあったが、初めての場面や外出先・招待先では、慣れないせいか積極的な感謝の表現は少なかった。

☆みんなで話し合った事や決まりをきちんと守り、責任感を持ちましょう。

＝ホームでの役割やお手伝い等は、年少児童は積極的に取り組む姿が見られたが、中高生になるとなかなか取り組めない。それぞれの活動が忙しい部分もあるが、その中でも協力的な児童も限定的に見られた。

(3) 具体的内容

- ① 幼児 ○就園児 …毎日元気に登園する姿がみられた。幼稚園行事にも参加し、楽しみながら学ぶ機会を多く持つことが出来た。
- ② 小学生 ○生活支援…日々の生活（寝る・起きる・食べる・学ぶ等）を中心に支援を実施した。早寝早起き、帰宅後の宿題、学校へのスムーズな登校など、基本的な生活習慣の定着に取り組んだ。
○学習支援…小学校への登校、日々の宿題等の基本的な支援に加え、通塾やボランティアによる英会話教室（希望者）など学力に応じた支援を実施した。
- ③ 中学校 ○生活支援…不登校傾向の児童が増加し、それと共に生活時間帯が夜型になる児童が増えた。生活時間帯を通常に戻す支援を検討し実施した。部活動等に取り組む児童については、日常生活が負担にならないよう、バックアップ体制の充実を図った。
○学習支援…受験生は、それぞれの目標に合わせて学習する様子が見られた。希望する児童は通塾や学習ボランティアの指導等に参加し、各々のペースで学習に取り組むことが出来た。
- ④ 高校生 ○生活支援…帰宅時間が遅くなる児童が多くなったが、携帯電話による事前の連絡が取れる面もあった。男女問わず早めの帰宅を促し、遅れる際も確実に連絡を行うよう周知を実施した。
○学習支援…それぞれのレベルに合わせて取り組む様子が見られた。単純な学力不足により単位の未取得や進級不可に至る児童はいなかったが、行き渋りや不登校の児童については、学校と連携し対応した。
○進路…高校卒業生 3名（就職2名・その他1名）
就職・・・株式会社エス・グループ ・社会福祉法人創生会

3. 職員について

(1) 人員について

(単位：名)

職種 区分	園長	事務員	家庭支援専門 相談員	個別対応職員	里親専門相談員	保育士		心理士	看護師	栄養士	調理員等	合計
						児童 指導員						
定数	1	1	1	1	0	27		1	0	1	4	37
4月1日在籍数 含同日採用	1	(1) 2	1	1	0	(9)		(3)	0	1	(2) 4	(15)
						28		1				39
異動	年間退職者数 含3月31日 付退職	0	1	0	0	(2)		(3)	0	0	0	(5)
						4		1				6
年間採用者数 除4月1日 付採用	0	0	0	0	0	(1)		0	0	0	0	(1)
						0		0				0
3月31日在籍数 除同日退職	1	(1) 1	1	1	0	(8)		(0)	0	1	(2) 4	(11)
						24		0				33

※・・・()内は非常勤職員

(2) 充足等について

職員定数(4:1)は37名であるが、実人数は39名でスタートした。
宿直専門職員1名を中途採用。

(3) 研修等について

職員のケアワーカーとしての資質向上のため、県内外の研修会やその他諸々の研修会に積極的に参加し、入所児童の処遇向上を図った。

5. 9～	県社協新任研修	8名	11. 8～10	全国児童養護施設施設長研修	1名
5. 25	市乳養協新任研修	11名	11. 13	職員研修会	3名
6. 7	県養協研修	3名	11. 15	感染症研修	1名
6. 13～15	九州ブロック研修	7名	11. 28	法人研修	7名
6. 18	県社協衛生研修	1名	12. 2～4	日本こども虐待防止学会	2名
6. 21 他	調理従事者研修	4名	12. 5	SOS 子どもの村研修会	1名
6. 23	救急法研修	1名	12. 8	パートナー心のクリニック事例勉強会	4名
7. 13	市乳養協施設見学	8名	12. 17	社会福祉士現場実習指導者講習	1名
7. 20～21	大都市社会福祉施設協議会	2名	1. 12	人権同和セミナー	1名
7. 24	性虐待研修	3名	1. 16	県養協栄養士調理部会	1名
8. 8	虐待フォーラム	1名	1. 28～29	性教育研究会	1名
9. 5	救急法研修	3名	1. 30	保護者支援研修会	6名
9. 12	人権同和研修	1名	1. 30～31	F S W研修会	1名
9. 13～15	研修指導者養成研修	1名	2. 7	給食従事者研修会	1名
9. 14	ネットセキュリティ研修	1名	2. 18	里親専門研修会	1名
9. 20～22	西日本セミナー	4名	2. 23	パートナー心のクリニック事例勉強会	2名
10. 10	全養協特別セミナー	1名	2. 27	L S W研修会	1名
10. 12	全養協特別セミナー	1名	3. 2～4	中堅職員研修	2名
10. 13	救命講習	1名	3. 9	東区給食施設栄養士研修会	1名
10. 23～24	市乳養協一泊研修	6名	3. 13～14	指導者研修	2名
11. 7～8	中堅職員研修	3名	3. 20	県養協施設見学	2名

4. 施設整備について

- 固定資産物品 ……
- ・事務所棟玄関インターフォン
 - ・事務所前遊具周辺フェンス
 - ・地域小規模用公用車（廃車）

5. 主 な 出 来 事

4. 2	和白青松園 桜まつり	9. 24	幼稚園 運動会
4. 23	中学校区球技大会	10. 1	小学校 運動会
5. 3～7	ゴールデンウィーク外泊	10. 8	校区体育祭
5. 3	和白病院招待	10. 9	青松園第50回大運動会
5. 10	法人監査	11. 16	福岡市行政指導監査
5. 21	第一ライオンズ 海掃除	11. 23	もちつき
6. 4	中学校 体育祭	11. 24	権利擁護委員会
6. 11	小学生球技大会	11. 28	法人研修
6. 18	福岡市児童養護施設球技大会	1. 1	年賀の会
7. 13	権利擁護委員会	1. 2～3	正月行事
7. 24	夜間避難訓練	1. 25	権利擁護委員会
7. 27～28	福岡県児童養護施設球技大会	2. 11	博多法人会ホークスキャンプ 招待
8. 3	児童面接	2. 17	第25回つばさ定期演奏会
8. 5	まつり三苦	3. 10	卒園生お別れ会
夏休み期間	ホーム外出		
9. 3	博多食文化の会食事招待		

6. 苦 情 解 決 処 理 委 員 会 に つ い て

- ・友人宅より ○小学生女兒。学校での授業でハサミを使用中に当園女兒が不安定な座り方をしバランスを崩した際に友人の左手甲にハサミが接触。3ミリ程度の切り傷が出来ており保護者へ電話謝罪している。その際に日頃のやり取りの中でも本児にちょっかいを掛けられている事もあり、きちんと謝罪してほしい旨を話されたため、担当保育士と本児・主任指導員で友人宅へ謝罪に赴く。直接お会いし話す際に本児にも優しく声をかけて頂き、今後も仲良くしてほしいと話される。
- ・友人宅より ○高校生女兒。特別支援学校に通学中で、学校の男児友人とのスマートフォンアプリでのやり取りの中で、性交渉を伺わせる内容があると友人母から学校へ苦情が入る。不適切な内容も多くみられるため、事が大きくなる前に対処したいとの事。当園としてもそうしたやり取りは本意でない旨をお伝えし、施設内でも性教育やネット犯罪についての指導など、再発防止も含めた本児の支援に勤める旨をお伝えした。

7. 権利擁護委員会

○平成 27 年度からの性的虐待を含む不適切な対応についての改善報告をもとに協議を行った。職員研修の実施と外部研修への参加を推進。スーパーバイザーを導入し、毎月のケース検討会を実施するとともに、現状の報告や今後の課題について検討した。

8. その他について

① 安全管理

- 防災訓練・・・消防署の指導による防災訓練を実施、また年 2 回の通報訓練を行った。
(避難、消火、通報訓練・地震避難訓練)
- 健康管理・・・例年通り児童や職員の定期検診・全職員の腸内検査を実施。また、全児童・全職員にインフルエンザの予防接種を実施し、病気の予防や体調管理に努めた。感染性の高い病気もホームでの生活により、感染の拡大が最小限に止まる効果も見られた。
- 衛生管理・・・各ホームでの手洗い・うがいの奨励を行なうと共に、施設内での感染性の高さを意識付け、食中毒予防など衛生意識向上に努めた。食事の配膳の際のエプロン・三角布の着用の徹底。
保健所指導のもと調理室の衛生管理を実施した。

② 地域交流・・・三苦校区夏まつり（たこ焼き店出店・備品貸し出し）への参加、桜まつり・運動会を開催し地域の皆さんとの交流の場とした。
町内育成会行事への児童・職員の参加を実施し、施設外での活動の支援を実施した。

③ 各種事業・・・地域小規模児童養護施設「あすなろホーム」「結実ホーム」、小規模グループケアホーム「松籟ホーム」、家族療法事業ホーム「いまここホーム」等の各種事業を実施し、自立援助や家族再統合を目標に、こどもたちの安心・安全な生活の確保に取り組んだ。

④ 後保護・・・お盆・正月を含め施設のイベント等には参加を呼び掛けた。
出張時など、連絡が取れる卒業生とは現地にて交流を持った。

⑤ 実習生、ボランティアの受け入れ

- 実習生（大学、短大、その他）
 - ・ 受け入れ校・・・19 校、実習日数 3 日～10 日、実習実人員 76 名
- ボランティアの受け入れについて
 - ・ ボランティアの受け入れについてはマニュアルを作成し、職員に徹底し意思の統一を図った。

○ ボランティア（招待）（敬称略）

- ・ 納涼例会、野球観戦…福岡第一ライオンズクラブ
- ・ ソフトバンクホークスキャンプ見学…博多法人会
- ・ 食事…博多食文化の会／焼肉極味や／坂本氏・平山氏／和白病院／セック労働組合

○ ボランティア（訪問）（敬称略）

- ・ 理容奉仕（move、約 60 名）
- ・ 余暇活動（養問研、他 5 団体約 70 名）
- ・ 労働奉仕（福岡第一ライオンズクラブ、フィリップモリス）
- ・ 学習指導（対象児童 3 名、週一回）

○ 寄付物について（敬称略）

・ 不二精機（おもちゃ、雑貨）	・ 玉屋（お菓子）		
・ (株)環境開発（菓子、図書カード）	・ ONE LIGHT 田村正信（食品）		
・ ドリームデリバリーサービスピザポケット（食材）	・ (株)アグイネットワーク（遊具）		
・ 藤堂和子（食材）			
・ 福岡第一ライオンズクラブ（食材）	・ 他 48 件		
・ 三菱UFJモルガン・スタンレーPB証券（雑貨）			
・ エムザス笹丘（お菓子）		全 58 件	計 2,194,000 円

○ 寄付金収入（敬称略）

・ 藤田芳枝	500,000 円	・ 公益財団法人博多法人会	112,710 円
・ Back Door Bar	500,000 円	・ 生命保険協会福岡協会	111,000 円
・ 真田大	300,000 円	・ 福岡文化ライオンズクラブ	100,000 円
・ 酒井一郎	300,000 円	・ 株式会社アペゼ	100,000 円
・ セック労働組合	200,000 円	・ 株式会社玉屋	100,000 円
・ 学校法人福岡保健学院	191,000 円	・ 他 21 件	901,000 円
		全 32 件	計 3,415,710 円